

はせだより 広報



「RUN伴+2023 in八街」が開催されます

◆参加型イベントで「認知症」をもっと知ろう!



八街市では、久しぶりとなる「RUN伴+2023 in八街」が開催されます。

「RUN伴+」とは、認知症を啓発するための参加型イベントとなっており、認知症になっても安心して暮らせる地域づくりを目指し、タスキをつなぐことを通じて認知症の理解を深めるのを目的としています。

デイケアセンターでは、イベントを盛り上げるための「旗づくり」が行われました。作業は数日に分けて進め、より多くのご利用

者さまが携わることができるようにしたことで、ご利用者さま同士で交流する姿や職員と協力して作成する姿がみられました。

今年は、「やちまたふくしフェスタ2023」とのコラボ開催や「オレンジカフェ」と呼ばれる、認知症カフェの同時開催が行われるため、認知症への理解を深めるよい機会となりそうです。患者さまやご家族さまの悩みを相談したり、交流もできますので皆さまもこの機会にぜひ、参加してみたいはいかがでしょうか。

▶ご利用者さまの「旗づくり」の様子をご紹介します!



▲一枚づつ丁寧に半分に折ります



▲剥がれないようにしっかり糊付けします



▲持ち手をついたら完成です!



新米の品評会が行われました

◆「美味しい食事」は美味しい「お米」から



先日、当院では「新米品評会」が行われました。今年の新米を数種類用意し、医師を含めた多職種で患者さまに提供するお米の品定めを行います。

まず、お米の品種は伝えずに白米の試食をします。それぞれの味や食べやすさなどを評価したうえで議論を行った結果、今回は千葉県産「コシヒカリ」が選ばれました。千葉県産のコシヒカリは、強い粘りとほのかな甘み特徴です。つやのある粒は一粒一粒、強い

旨みを感じることから、“ご飯を味わうためのお米”とも言われています。

日々のお食事を大切にしている当院では、栄養面はもちろん、味や見た目などにもこだわった食事の考案に尽力しております。そんなお食事に欠かせない白米も、こだわって選ばせていただきましたので皆さまにお届けするのが楽しみです。



◆「ジャック・オー・ランタン」はもともと「カブ」のランタンだった!?

「ハロウィン」は古代ケルト人が始めた「秋の収穫感謝祭」また、亡くなった霊が親族を訪ねてくる日だと言われています。ハロウィンの時期になると街中で見かける「ジャック・オー・ランタン」ですが、元々は「カブ」で作られていました。その昔、ジャックという名の悪賢い遊び人がおり、ハロウィンの夜に地獄からでてきた悪魔を騙して“死んでも地獄に落ちない”という契約をしました。彼は死後、生前の行いの悪さから天国へ行けず、契約により地獄にも行けなくなり、悪魔が分けてくれた小さな炎の塊を「カブで作ったランタン」へ灯して彷徨い続けているという話が起源なのだそうです。現在は、多くの地域で入手しやすく、加工しやすいことから「カボチャ」を使用するようになりました。(事務員R)

入院・転院のご相談

<空所情報>※10/5現在
回復期病棟(8床) 療養病棟(0床)
ホームページで確認できます



医療法人社団誠和会長谷川病院
■地域連携部(MSW): 渡邊、山本、安部
TEL: 043(444)0137
FAX: 043(444)0257
HP: <http://www.hphasegawa.or.jp/wp/>

